

# 「総合的な学習の時間」における映像・メディアの教材性

-SDGsに関連するドキュメンタリーに焦点をあてて-

メタデータ	言語: jpn 出版者: 明治大学教育実習指導室 公開日: 2021-05-28 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 下田, 好行 メールアドレス: 所属:
URL	<a href="http://hdl.handle.net/10291/21719">http://hdl.handle.net/10291/21719</a>

## 「総合的な学習の時間」における映像・メディアの教材性

— SDG s に関連するドキュメンタリーに焦点をあてて —

下 田 好 行

### はじめに

「総合的な学習の時間」は現代的・人類的課題を扱い、その解決を志向する学習を行う。現在、地球は未曾有の危機に瀕している。パンデミック、環境問題、戦争、人権、エネルギーの確保、貧困と飢餓等、これらの諸課題を地球規模で解決する必要に迫られている。このために国連は「持続可能な開発目標」(Sustainable Development Goals)を設定した。「総合的な学習の時間」においてもこのSDG sの学習を行う必要がある。こうしたSDG sの授業に使用できる映像は、厚生労働省社会保障審議会文化福祉分科会の児童福祉文化財の中にも表れている。その中には「総合的な学習の時間」で使用できる映像作品もある。そこで、本稿では、この児童福祉文化財「特別推薦」の作品を整理し、これらの映像が現代的・人類的課題の授業の中で使用できるかどうかを吟味したいと考える。

### 1 「総合的な学習の時間」と映像メディアの教材性

#### (1) 「総合的な学習の時間」の内容

学習指導要領の改訂では、「主体的・対話的で深い学び」の授業改善と資質・能力の育成、カリキュラム・マネジメントが強調された。それは教師が教室の中心に立ち児童生徒への問答と板書を中心とした授業の転換を迫るものであった。児童生徒が主体的に課題に取り組み、児童生徒とのコミュニケーションの中で課題解決していく授業を目指すものである。そのために育成しようとする資質・能力を「知識及び技能」「思考力・判断力・表現力等」「学びに向かう力、人間性等」に整理した。さらに、教科書の教材を順番になぞるような授業ではなく、教師が単元の構成を教科横断的に組み替えるカリキュラム・マネジメントも推奨されている。特に、「総合的な学習の時間」ではこれらのことが強調されている。『中学校学習指導要領（平成29年告示）』では、「総合的な学習の時間」が扱う内容として次の点があげられている。<sup>1</sup>

目標を実現するにふさわしい探究課題については、学校の実態に応じて、例えば、国際理解、情報、環境、福祉、健康などの現代的諸課題に対応する横断的・総合的な課題、地域や学校の特色に応じた課題、生徒の興味・関心に基づく課題、職業や自己の将来に関する課題などを踏まえて設定すること。

このうち本稿では「現代的諸課題」について論じる。この「現代的諸課題」について、『中学校学習指導要領（平成29年告示）解説 総合的な学習の時間』では、次のようにある。<sup>2</sup>

国際理解、情報、環境、福祉・健康などの現代的な諸課題に対応する横断的・総合的な課題とは、

社会の変化に伴って切実に意識されるようになってきた現代社会の諸課題のことである。そのいずれもが、持続可能な社会の実現に関わる課題であり、現代社会に生きる全ての人が、これらの課題を自分のこととして考え、よりよい解決に向けて行動することが望まれている。また、これらの課題については正解や答えが一つに定まっているものではなく、従来の各教科等の枠組みでは必ずしも適切に扱うことができない。したがって、こうした課題を総合的な学習の時間の探究課題として取り上げ、その解決を通して具体的な資質・能力を育成していくことには大きな意義がある。

ここからは「総合的な学習の時間」では、「持続可能な社会を実現するために「現代的諸課題」を扱い、答えが一つに定まらない課題に対して、教科横断的にアプローチするものであることがわかる。

## (2) コロナ禍の教育における ICT の促進

コロナ感染症 (COVID-19) は 2019 年から全世界に感染が拡大した。2020 年 3 月 2 日からは、全国の小・中・高等学校、特別支援学校において、3 ヶ月あまり休業となった。大学においては、オンライン授業となり、オンデマンドやテレビ会議システムを利用した授業が行われた。この結果、知識の教授はオンライン授業でも可能であることが証明された。しかし、一方では「対面で授業を行うことの意味」が問題となった。ここから「授業とは何か」という学習の再定義に関する議論が浮上した。

小・中学校では、コロナ禍の影響を受け、GIGA スクール構想が前倒しされた。2019 年に続き 2020 年に補正予算が生まれ、1 人 1 台の端末と校内ネットワークの環境整備の予算配分が内定した。こうした影響を受け、デジタル教科書も議論の対象になった。今までのデジタル教科書は、児童生徒に教科書を拡大して提示するだけの存在であった。しかし、1 人 1 台の端末を保持していることから、動画やドリル問題、他の資料へのアクセス、教師とのコミュニケーションも可能とするデジタル教科書が必要になってきた。そのため文部科学省は学習指導要領の内容をコード化し、2022 年に検定、23 年に自治体の採択、24 年の学習用デジタル教科書の導入を想定している。<sup>3</sup>

このように授業の ICT 化はこれからの授業において現実化していく。「総合的な学習の時間」においてもこうした傾向が加速していくと考えられる。「総合的な学習の時間」で現代的・人類的課題を扱う場合においても ICT は有効に働くツールであると考えられる。特に映像資料の活用は授業で重要な要素となる。デジタル教科書や児童生徒の端末に映像をどのような形で忍ばせるかが今後の授業研究の課題となってこよう。

## 2 SDG s と現代的・人類的課題

「総合的な学習の時間」で扱う内容は、現代の地球、及び世界が抱える課題を対象とする。産業革命以来、人間は機械を発明し、高度な科学技術と文化を発達させてきた。しかし、一方では、地球環境の破壊、化石燃料の争奪戦と枯渇、貧困と格差問題、疾病の蔓延、自由・平等・人権への侵害、戦争と平和等の問題は未だ解決されていない。これらの問題を解決しない限り、これからの地球と世界の恒常的発展はありえない。そこで、出てきたのが SDG s という概念である。

SDGs は「持続可能な開発目標」(Sustainable Development Goals) のことである。この目標は 2015 年 9 月の国連サミット (ニューヨーク) で「持続可能な開発のための 2030 アジェンダ」として採択された。2016 年から 2030 年までの世界共通の目標を 17 の目標 (ゴール) と 169 のターゲットで表現している。これは国連に加盟している 193 の国と地域が 2030 年までに達成しようとするものである。SDG は現代的・人類的課題を開発途上国だけでなく、先進国をも含めた課題として捉えている。特に、その取り組みを国や地域、NPO や NGO だけに求めるのではなく、民間企業にもその取り組みを求めた点が特

徹的である。従来はとかく国やNGOの資金援助や取り組みだけで、一人ひとりが当事者意識を持って取り組みなかった。しかし、民間企業の事業にもその開発目標を課することによって、地球や世界の持続的発展が現実味を帯びることになった。さらに、SDGsは貧困・飢餓・教育等の社会目標と同時に、気候変動・エネルギー・生物多様性といった環境目標、また、雇用・インフラ・生産・消費等の経済目標、さらに、不平等・ジェンダー・平和等の目標もあわせて目標化したことに意義が見いだせる。SDGsの17の目標は下記の通りである。<sup>4</sup>また、このSDGsの目標を筆者が簡略化した。これを【】の中に示すことにする。

目標1. あらゆる場所のあらゆる形態の貧困を終わらせる。

【1：貧困の終結】

目標2. 飢餓を終わらせ、食料安全保障及び栄養改善を実現し、持続可能な農業を促進する。

【2：飢餓の終結と農業促進】

目標3. あらゆる年齢のすべての人々の健康的な生活を保障し、福祉を促進する。

【3：健康的な生活と福祉の促進】

目標4. すべての人々への、包括的かつ公正な質の高い教育を提供し、生涯学習の機会を促進する。

【4：質の高い教育と学習の機会の促進】

目標5. ジェンダー平等を達成し、すべての女性及び女児の能力強化を行う。

【5：ジェンダー平等と女性・女児の能力強化】

目標6. すべての人々の水と衛生の利用可能性と持続可能な管理を確保する。

【6：水と衛生の確保】

目標7. すべての人々の、安価かつ信頼できる持続可能な近代的エネルギーへのアクセスを確保する。

【7：近代的エネルギーへのアクセス】

目標8. 包括的かつ持続可能な経済的成長及びすべての人々の完全かつ生産的な雇用と働きがいのある人間らしい雇用（ディーセント・ワーク）を促進する。

【8：経済的成長と人間らしい雇用】

目標9. 強靱（レジリエント）なインフラ構築、包括的かつ持続可能な産業化の促進及びイノベーションの推進を図る。

【9：インフラの構築と産業化・イノベーションの推進】

目標10. 各国内及び各国間の不平等を是正する。

【10：不平等の是正】

目標11. 包括的で安全かつ強靱（レジリエント）で持続可能な都市及び人間居住を実現する。

【11：都市と人間居住】

目標12. 持続可能な消費形態を確保する。

【12：消費生産形態の確保】

目標13. 気候変動及びその影響を軽減するための緊急対策を講じる。

【13：気候変動の対策】

目標14. 持続可能な開発のために海洋・海洋資源を保全し、持続可能な形で利用する。

【14：海洋資源の保全】

目標15. 陸域生態系の保護、回復、持続可能な利用の促進、持続可能な森林の経営、砂漠化の対処、ならびに土地の劣化の阻止・回復及び生物多様性の損失を阻止する。

【15：陸域生態系・生物多様性の保持、森林と砂漠化への対処】

目標 16. 持続可能な開発のための平和で包括的な社会を促進し、すべての人々に司法へのアクセスを提供し、あらゆるレベルにおいて効果的で説明責任のある包括的な制度を構築する。

【16：平和な社会の促進と司法・制度の構築】

問題 17. 持続可能な開発のための実施手段を強化し、グローバル・パートナーシップを活性化する。

【17：グローバル・パートナーシップ】

### 3 社会保障審議会の児童福祉文化財と「特別推薦」作品

#### (1) 映像・メディアにおける児童福祉文化財「特別推薦」作品

厚生労働省の社会保障審議会の福祉文化分科会では、児童福祉文化財を選定している。児童福祉文化財には、出版物、舞台芸術、映像・メディアの部門がある。部門ごとに選定され、その中で特に優秀な作品には「特別推薦」が与えられる。選定は毎年行われている。選定の基準は以下の通りである。<sup>5</sup>

- ・児童に適切な文化財であって、児童の道徳、情操、知能、体位等を向上せしめ、その生活内容を豊かにすることにより児童を社会の健全な一員とするために積極的な効果をもつもの。
- ・児童福祉に関する社会の責任を強調し、児童の健全な育成に関する知識を広め、または、児童問題の解決についての関心及び理解を深める等、児童福祉思想の啓発普及に積極的な効果をもつもの。

映像・メディア委員会では、毎年作られている映像・メディア作品を審議し、児童福祉文化財を選定している。また、その中で優れた作品を「特別推薦」としている。映像・メディアの児童福祉文化財及び「特別推薦」の一覧は、厚生労働省・子ども家庭局・子育て支援課・育成環境係で整理されている。一覧は平成 13 年度から令和元年度まで整理されている。本稿ではこのうち、平成 26 年度から令和元年度までの「特別推薦」に選ばれた作品で、「持続可能な開発」の趣旨に沿ったもので、ドキュメンタリー作品、または、実話をもとに作成された作品を抽出することにする。推薦作品の一覧には、作品名、申請者、規格、対象、推薦年度が付されている。<sup>6</sup>

このうち、筆者が映画館で観覧した作品、及び DVD で視聴した作品をあげ解説する。そこには SDG s のどの目標とリンクするか。先に筆者が作成した SDG s の簡易的な目標を【】の中に付すことにする。

#### (2) 平成 26 年度の児童福祉文化財「特別推薦」作品

『君が僕の息子について教えてくれたこと』日本放送協会

テレビ・ドキュメント 59 分、小学校高学年以上・家庭・一般

筆者はこの作品を DVD で視聴した。東田直樹は『自閉症の僕が飛び跳ねる理由』を出版した。この著書をイギリスの作家、デイヴィッド・ミッチェルが英訳した。この経緯を映像にしたのがこの作品である。ミッチェルには自閉症の息子がいる。ミッチェルは「息子がどうしてあのような言動をとるのがわかった」と語り、東田の著書を絶賛する。東田の著作は今や世界 23 カ国で翻訳されている。この映像作品は、こうしたミッチェルと東田との出会いを映像としてまとめた作品である。そこには東田の日常と東田作品から希望を受けとった人々の想いも語られている。2014 年放送に NHK で放送された作品である。

この作品の内容は SDG s の【3：健康的な生活と福祉の促進】【4：質の高い教育と学習の機会の促進】【10：不平等の是正】の目標にリンクする。

#### (3) 平成 27 年度児童福祉文化財「特別推薦」作品



## 1) 『あん』株式会社エレファントハウス

映画・DVD・ドラマ 113分、小学生以上

筆者はこの作品をDVDで視聴した。監督・脚本は河瀬直美、原作はドリアン助川（明川哲也）である。原作の小説「あん」は、ドリアン助川がライブで出会った多摩全生園の元患者、森本美代治さんの人生の軌跡から思いついた作品である。その小説を河瀬直美監督が映画化した。罪を犯して刑務所を出所した千太郎（長瀬正敏）はどら焼き店で働く。そこに徳江（樹木希林）が働きたいとやってくる。徳江は小豆に語りかけながらゆでる。その「あん」のおいしさに店は評判になり大繁盛する。しかし、店主は徳江の指が曲がっていることから「らい」患者だと見抜き、徳江をやめさせる。風評で店には客が途絶えたが、常連客の中学生ワカナ（内田伽羅）だけは来る。千太郎とワカナはハンセン療養所に徳江を訪ね親交を深めていく。そこで、千太郎は徳江が製菓部で働いていたことを知る。一方、千太郎はお店からいなくなってしまう。経営者がお好み焼き屋を作るというので、自暴自棄になってしまったのである。ワカナはそんな千太郎を探しだし、再び療養所に行く。しかし、既に徳江は3日前に亡くなっていた。千太郎は徳江の声が録音されたテープを徳江の友人から渡される。そこには徳江の千太郎に対する思いが語られていた。

「店長さんの眼が悲しそうで、昔の私を見ているようだったの。療養所の外に一生出られないことを知ったときの私の眼に似ていたのよ。だから吸い寄せられるようにお店に行った。ねえ、店長さん、私たちはこの世を見、聞くために生まれてきた。だとすれば私たちは何かになれなくてもそれだけで生きる意味があるのよ。」

この作品の内容はSDGsの【3:健康的な生活と福祉の促進】【10:不平等の是正】の目標にリンクする。

## 2) 『セバスチャン・サルガド 地球へのラブレター』株式会社レスベ

映画・DVD・ドキュメント 101分、小学校中学年以上

筆者はこの作品をDVDで視聴した。監督はヴィム・ヴェンダースである。セバスチャン・サルガドに焦点をあてたドキュメンタリーである。サルガドは世界的な報道写真家であり、環境活動家でもある。その作品はモノクロで構成され「神の眼」と称される構図で人々を魅了する。彼は経済学を大学院で修め、イギリスで国際コーヒー機構に勤める。仕事の合間に撮影した写真がポスターに利用され、フォトジャーナリストとして独立する。彼はまず、未開のラテンアメリカを撮影した『Other America』を出版し、文明社会の外にある人間の姿を記録する。次に、サブサハラの子供たち取材した『サヘル：苦境にある人間』『サヘル：道の終わり』を出版し、世界に飢餓や貧困の現実を知らしめる。また、グローバル化された鉱工業の現実を取材した『人間の大地 労働』を出版し、人間の欲望と自然・環境破壊の現実を全世界に知らしめた。さらに、移民や難民を取材し『Exodus』『Les Enfants 1' exode』を出版し、戦争による暴力・虐殺等、人間の残忍さの現実を世に知らしめた。この取材でサルカドは精神的におかしくなってしまう。そのようなサルカドを再生させたのは実家の農場の再建であった。グローバルな工業化による自然破壊の影響で、気候は変化し、農場の森林は枯れ砂漠となってしまった。この農場を再生するためにサルカドの妻の提案で植林が進められることになった。この事業がサルカドの内面を動かし、再び写真家としての道を開いていった。サルカドは今までの路線を変え、環境写真家としての道を歩むことになった。こうしたサルカドの絶望と再生の軌跡がこの作品には描かれている。

この作品の内容は、SDGsの【1:貧困の終結】【2:飢餓の終結と農業促進】【6:水と衛生の確保】【10:不平等の是正】【13:気候変動の対策】【15:陸域生態系・生物多様性の保持、森林と砂漠化への対処】【16:平和な社会の促進と司法・制度の構築】の目標とリンクする。

#### (4) 平成 28 年度児童福祉文化財「特別推薦」作品

##### 『この世界の片隅に』東京テアトル株式会社

アニメ・128 分、小学生以上・家庭・一般

筆者はこの作品を映画館で観た。原作は、この史代の漫画である。これを片淵須直が監督・脚本した長編アニメーションである。主人公はすずはのんびりとした性格で、絵を描くのが得意な女の子であった。ある日、北条周作という青年がすずを嫁に欲しいとすずの家を訪れる。幼少期、すずと出会い一目惚れをしたというのであった。そうした理由ですずは、昭和 19 年に広島県の呉の北条家に嫁ぐ。しかし、嫁ぎ先では周作の姉が娘の晴海を連れて出戻ってくる。すずとは反対の性格で、すずはいつも怒られていた。しかし、すずは娘の晴美とは仲良しで、よく軍艦の絵を描いてあげた。呉は軍港で軍艦が碇泊していた。そんな生活の中、空襲は激しさを増し、防空壕に逃げ込むことも多くなっていった。あるとき、空襲で怪我をした義理の父をお見舞いに晴美と行った。その帰り道、空襲に遭い防空壕に逃げ込む。防空壕から出た直後、晴美は不発弾に触れて死んでしまう。すずも晴美を助けようと差し出した右手を失う。すずは晴美の母親から責められる日々が続いた。すずは広島の実家に帰ろうと思った。そのとき、広島に原爆が落とされた。広島は見るも無残な状態で、実家の家族の消息もわからない。呉に帰ろうとしたとき、家族を原爆で失った少女と出会う。すずと周作は少女を呉に連れて帰る。

この作品の内容は、SDG s の【10 不平等の是正】【16 平和な社会の促進と司法・制度の構築】の目標とリンクする。

#### (5) 平成 29 年度児童福祉文化財「特別推薦」作品

##### 1) 『一陽来復 Life Goes On』株式会社平成プロジェクト

ドキュメント・81 分、中学生以上・保護者指導者等・一般啓発

筆者はこの作品を DVD で視聴した。伊美亜が監督したドキュメンタリーである。東日本大震災から 6 年が経過したとき、宮城県、岩手県、福島県で前向きに生きる人々取材した作品である。三人の子どもを津波で失った石巻の遠藤さん夫妻は、自分の家の跡地に一緒に避難していた人の居場所を作った。また、南三陸町の伊藤さんは「震災をなかったものにしたくない」と思い、震災を風化させない語り部の活動を行っている。また、福島県川内町の秋元さんは原発 30 キロ圏内に住み、政府から止められても震災以来ずっと農業を続けている。また、福島県浪江町吉沢さんは、被爆した牛を殺処分せず、世話をし続けている。牛を放置して逃げて餓死させた人や殺処分をした人を「責められない、責めてはいけない。みんな正しいと言うべきですね」と語る。また、石巻町で漁業を営む須藤さんは「水質汚染された湾を津波はきれいにくれた。海を 50 年若返らせた」と語る。それぞれの人がそれぞれの思いを抱いて、今を前向きに生きている姿をこの映画では見ることができる。

この作品の内容は、SDG s の【3: 健康的な生活と福祉の促進】【9 インフラの構築と産業化・イノベーションの推進】の目標とリンクする。

##### 2) 『子どもが教えてくれたこと』株式会社ドラマ

ドキュメント・80 分、小学校高学年以上・保護者指導者等・一般啓発

筆者はこの作品を映画館で見た。監督・脚本は、フランスのジャーナリスト、アンヌ＝ドフィーヌ・ジュリアンである。子どもの映画祭である「ジッフォーニ映画祭」で作品賞を受賞した。主人公はアンブル、カミーユ、イマド、シャルル、テュデュアルの 5 人子どもである。全員病気を抱えている。アンブルは、肺動脈性肺高血圧症を患い、背中リュックには薬剤注射のポンプが入っている。お芝居が大

好きで毎日楽しくすごしている。カミーユは、神経芽腫（骨髄）というガンを患っており、サッカーが大好きである。イマドは、腎不全で腹膜透析をしている。治療のためにアルジェリアからフランスに移住した。シャルルは、表皮水疱症で、表皮に水疱ができたり剥がれたりする病気である。平日は病院で過ごし、週末は自宅に帰っている。テュデュアルは、神経芽腫を煩う少年で、手術の結果、左右で目の色が違っている。彼らはこれから起こる将来のことを恐れていない。今この瞬間を元気に楽しく生きている。こうした子どもの明るさから、大人は元気をもらえる作品となっている。

この作品の内容は、SDG s の【3：健康的な生活と福祉の促進】の目標とリンクする。

### 3) 『いろとりどりの親子』 有限会社ロングライド

ドキュメント・93分、高校生・保護者指導者等・一般啓発

筆者はこの作品を映画館で観た。監督はレイチェルド・ドレッツィン、脚本はアンドリュウ・ソロモンである。彼は原作『FAR FROM THE TREE』を執筆し本作に出演もしている。彼は両親がゲイである自分を受け入れようとして苦悩している姿を見て、親と子に違いがあり、そのことで苦悩する家族の物語を収集した。この映画には彼を含めて6組の家族が登場する。自閉症のジャック・オルナットは言葉を話すことができない。しかし、タイピングを覚え思いを伝えることができるようになった。ダウン症ジェイソン・キングスレーは幼少期、「セサミストリート」にも出演し、ダウン症の可能性を世に示した人物である。44歳になった彼は今仲間3人と共同生活をしている。リア・スミスとジョセフ・ストラモンドの夫婦はともに低身長症である。ジョセフは大学で教え、リアは二人の子どもを出産している。二人は「自分たちはなおすところなんてない」と語り、低身長だと卑下することなく人生を楽しんでいる。マジュースキー骨異形成性原発性低身長症のロイーニ・ヴィヴァオは、母親に保護されながら生活している。また、息子のトレバーが少年殺人容疑で逮捕されたリース夫妻は、事件後住居を変えて生活する。リース夫妻の2人の子どもは将来子どもを持たないと決めているという。

この作品の内容は、SDG s の【3：健康的な生活と福祉の促進】【5：ジェンダー平等と女性・女兒の能力強化】【10：不平等の是正】の目標とリンクする。

## (6) 令和元年度児童福祉文化財「特別推薦」作品

### 1) 『北の果ての小さな村で』 株式会社サジフィルム

ドラマ 94分、小学校中学年以上・保護者指導者等・一般啓発

筆者はこの作品をDVDで視聴した。監督・撮影・脚本は、サミュエル・コラルデである。監督がグリーンランドの友人から聞いた話をもとに作成したフィクションとドキュメントが融合した作品である。デンマークの28歳の青年アンダースはグリーンランドの人口80人の町、チニツキラークの小学校に赴任する。しかし、子どもはいうことは聞かず、土地の人も彼をなかなか受け入れなかった。学校を無断欠席したアサーを心配し彼の家を訪問する。アサーは祖父と狩りに行ったとのことであった。アンダースは祖母に勉強の大切さを話すと逆に「人生で必要なことは祖父が教える。祖父との時間を大切にしたい」と言われてしまう。アンダースは土地の人々の現実との中で生まれた考え方を知ることになった。授業でも狩りをとりあげ、ゲストティーチャーを招く。また、アンダース自身も狩りに行きたいと思うようになった。狩りのベテランのトビアスとジュリアスに狩りに連れて行って欲しいと言う。アサーも連れて行くことになった。アンダースはデンマークに帰ることなく、今もグリーンランドで教師をしている。

この作品の内容は、SDG s の【4：質の高い教育と学習の機会の促進】【8：経済的成長と人間らしい雇用】【10：不平等の是正】【17：グローバル・パートナーシップ】の目標とリンクする。



## 2) 『淪落の人』 武蔵野エンタテインメント株式会社

ドラマ・112分、中学生以上・保護者指導者等・一般啓発

筆者はこの作品を映画館で観た。監督・脚本はオリヴァー・チャン、香港の映画である。「淪落の人」とは「落ちぶれてみじめな人」という意味である。突然の事故で半身不随となったリョン・チョンウィンは妻と離婚し、息子とも離れて暮らしている。楽しみもなく自分では何一つできない。口うるさい性格が災いして、家政婦も長くは続かない。そんな生きる希望を失ったチョンウィンのもとにフィン人のエヴリン・サントスが家政婦としてやってくる。香港には外国人労働者が多い。低賃金で働き、本国に仕送りをしている。チョンウィンは広東語が話せないエヴリンにいらいらしていた。しかし、片言の英語で会話をしているうちに徐々に友情が芽生えていった。お互いの境遇とそこからくる失意を理解しあうようになった。エヴリンは写真家になるという夢を持っていた。しかし、家が貧しく、生活を支えるために夢を諦めた。チョンウィンはそんなエヴリンにカメラをプレゼントする。また、エヴリンが撮った写真をコンペティションに出展させる。また、写真を勉強するために大学を探した。エヴリンの夢を実現するために応援したのである。その甲斐あってエヴリンはプロの写真家に認められ、その助手としての職を得て、チョンウィンのもとを去る。この作品からは、人間が夢を持つことによって生きる力と希望を得ることができることを知ることができる。障害を持った人、貧困の人、失意の人、社会の片隅に追いやられた人、誰もが諦めずに夢を持ちたいと思わせる作品であった。

この作品の内容は、SDG s の【3:健康的な生活と福祉の促進】【4 質の高い教育と学習の機会の促進】【10: 不平等の是正】の目標とリンクする。

## (7) SDG s と児童福祉文化財

厚生労働省の児童福祉文化財「特別推薦」になった作品は、SDG s の内容と重なる部分があると言える。作品で扱ったテーマや題材が現代的・人類的課題にリンクしているのである。これはドキュメンタリー作品に絞ったことが影響しているかもしれない。ドキュメンタリー作品は、現代社会に潜む矛盾や葛藤を告発するという意味合いもあるからである。となればSDG s を理解し促進させるためには、教育においてドキュメンタリー作品を利用するということが有意義であることが言える。そこで、次にSDG s の教育における映像作品の教材性について考察することにする。

## 4 ドキュメンタリー映像作品における教材性

### (1) SDG s で育成する資質・能力

SDG s 教育における映像の重要性について考察する場合、まずSDG s では児童生徒に何を育成したらよいかを明確にする必要がある。SDG s に先行してESDという概念があった。ESDはEducation for Sustainable Developmentの略で「持続可能な開発のための教育」と訳されている。環境、貧困、人権、平和、開発といった現代的・人類的課題を扱う学習である。ESDは2005年～2014年に、国連の専門機関であるユネスコが主導したもので、日本での窓口は文部科学省である。一方、SDG s は2016年～2030年までの持続可能な開発目標で、国連が主導機関である。日本では外務省が窓口になっている。このSDG s はESDをも吸収した大きな概念となっている。両者とも現代的・人類的な課題を扱う点で同じである。文部科学省はESDにおける「育みたい力」として、次のような点をあげている。<sup>7</sup>

- ・持続可能な開発に関する価値観（人間尊重、多様性の尊重、非排他性、機会均等、環境の尊重等）
- ・体系的な思考力（問題や現象の背景の理解、多面的かつ総合的なものの見方）
- ・代替案の思考力（批判力）

- ・データや情報の分析能力
- ・コミュニケーション能力
- ・リーダーシップの向上

ここからは知識だけではなく、持続可能な開発に関する価値観、問題の背景の理解、多面的・多角的なものの方・考え方、代替案を産出できる思考力の育成が重要であることがわかる。これらはいわば「生きて働く力」である。こうした「生きて働く力」は、人間の内面の深いレベルでの認識がなければ出てこない。そのためには深い認識に導く学習が必要となる。

## (2) ドキュメンタリーの教材性

### 1) 「物語」という間接体験

人間が深く認識するためには「物語」が必要だと筆者は考える。自己は「物語」の中で主人公と同じ風景を見、同じ感情を味わう。こうした間接体験は、物語を自分のこととして受け止める当事者意識を芽生えさせる。この当事者意識は、知識と人間の内面との距離を近づける。つまり、人間の内面の深い部分で理解することができるようになる。このように「物語」は、人間を深い認識に導くための道具となり得る。

### 2) 映像が伝える象徴性

映像作品が人間に与える情報は大きい。ドキュメンタリーやドラマでは、人物の台詞とともに演技者の表情や立ち振る舞い、その奥に醸し出す雰囲気までも伝えてくれる。言葉にできないもの、あるいは言葉を越えたものまでも伝えてくれる。人間はその言葉を越えた象徴を頭だけではなく体全体で受け止める。ゆえに深く認識することができるのである。垣内松三という国語教育学者は形象理論を唱えた。人間は言葉という記号（形）の奥には、雰囲気やイメージという象徴があると主張する。この象徴を直感で読みとるのが文学の読みだとしている。この理論からしても映像は言葉を越えた象徴をも人間に伝えてくれるものである。

### 3) ドキュメンタリーであるゆえの説得力

児童生徒の学習意欲がわからないのはなぜであろうか。それは「学ぶことの意味」がつかめていないからである。児童生徒に「学ぶことの意味」をつかませるためには「今行っている学習が自分にとってどのような意味があるのか、自分の将来とどのように関係してくるのか」を理解させる必要がある。このためには学習内容（教材）と児童生徒の内面をつなげる必要がある。このつながりをつけるのに有効なのがドキュメンタリーである。現実の実際を記録したものに触れれば、児童生徒の当事者意識を芽生えさせる。これゆえドキュメンタリーは説得力があり、児童生徒の内面に深く届くのである。

### 4) 多面的・多角的なものの方・考え方の育成

SDG sでは、多面的・多角的なものの方・考え方を育成する。学習を行うとき、人間は今学んでいることだけにとらわれてしまう傾向がある。そうすると全体が見えなくなり、細かな部分にこだわってしまう。現代的・人類的課題を扱うとき、特に重要なのが全体的な視点である。全体を俯瞰し、鳥瞰的な視点から対象を捉え直すことがSDG sには必要である。答えが一つに定まらない課題に自分なりの答えを見出すのは、これからの時代と社会に生きるために必要な資質・能力である。「総合的な学習の時間」

においてはこのことの育成が特に求められる。

### (3) ドキュメンタリーを授業の教材とするうえでの留意点

ドキュメントの映像を授業の教材とするうえでの留意点を次に考察する。ドキュメンタリーあるいはドキュメンタリーとフィクションが混在した作品を授業に導入するためには、映像のどの部分を見せるかが問題となる。授業で映像を見せる時間は10分、あるいは長くても15分にとどめるべきである。映像を見せる時間が長すぎると児童生徒がそこから何を読み取り、何を考えるかの時間がなくなってしまふからである。また、考えたことを発表する時間も確保する必要がある。そのために教師があらすじをどの程度示し、映像のどの部分を見せるかを事前に教材研究する必要がある。また、考えさせる場面で、児童生徒にどのような発問を投げかけるかが問題となる。問いの立て方次第で、児童生徒の思考が活発になったり深くなったりするからである。

### おわりに

「総合的な学習の時間」における映像・メディアの教材性について追究してきた。現在、地球は未曾有の危機に瀕している。パンデミック、環境問題、戦争、人権、エネルギーの確保、貧困と飢餓等、これらの諸課題を解決することは、現代に生きる我々の責務であり、このことを避けて人類の持続的発展はない。このために国連は「持続可能な開発目標」(Sustainable Development Goals)を作成し、2030年までに達成する世界共通の17の目標を設定した。したがって「総合的な学習の時間」においても、このSDGsの学習を行うことが求められている。現在、学校の授業ではコロナ感染症の影響を受けて、ICT化が加速されている。コロナ感染症の影響でGIGAスクール構想が前倒しになり、デジタルの教材や映像を授業の中で活用できるようになった。そこで、厚生労働省の社会保障審議会福祉文化分科会が選定した、児童福祉文化財の映像・メディア作品を吟味した。その結果、児童福祉文化財「特別推薦」作品には、現代的・人類的諸課題に触れる作品が多かったことを確認した。その中でも特にドキュメンタリーの映像が現代的・人類的課題の授業に有効であることがわかった。ドキュメンタリーの教材としての有用性として、「物語」という間接体験「映像が伝える象徴性」「ドキュメンタリーであるゆえの説得力」「多面的・多角的なものの見方・考え方の育成」が確認された。また、そこからドキュメンタリーを授業の教材とするためには、「映像のどの部分を見せるか」「その映像からどのような問いを立てるか」が重要であることがわかった。

### 註

- 1 文部科学省『中学校学習指導要領(平成29年告示)』東山書房2017、前掲「中学校学習指導要領、p.160
- 2 文部科学省『中学校学習指導要領(平成29年告示)解説 総合的な学習の時間編』東山書房、2017、p.29
- 3 「GIGAスクール工程表 デジタル教科書2024年本格導入」『教育新聞』2020.7.8
- 4 『我々の世界を変革する：持続可能な開発のための2030アジェンダ』(仮訳)、2015年9月25日第70回国連総会で採択) pp.15-26.、外務省「JAPAN SDGs Action Platform」、<https://www.mofa.go.jp/mofaj/gaiko/oda/sdgs/pdf/000101402.pdf> 2021.1.7取得
- 5 厚生労働省「児童福祉文化財について」[https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kodomo/kodomo\\_kosodate/kosodate/kosodate18/index.html](https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kodomo/kodomo_kosodate/kosodate/kosodate18/index.html)、2021.1.7取得
- 6 厚生労働省・子ども家庭局・子育て支援課・育成環境係『平成13年度～令和元年度社会保障審議会、児童福祉文化財、推薦作品一覧 福祉文化分科会(映像・メディア委員会)』2020年9月
- 7 文部科学省「Education for Sustainable Development」p.1、<https://www.mext.go.jp/unesco/004/1339970.htm> 2021.1.7取得